

令和2年全国安全週間に寄せて 坂本会長メッセージ

働く仲間と栄冠を共に

夏は再び巡って、全国安全週間の季節を迎えました。COVID-19、あるいは、BLACK SWAN 2020 は、新型コロナウイルスの代名詞です。普通では起こり得ない現象を、黒い白鳥と呼びます。このコロナ禍によって、恒例の夏の大会は中止となりました。昨年は、第78回全国産業安全衛生大会を新組織になった京都で初めて開催しました。地元の実行委員長を務めた者として、実施して三カ月後に訪れた黒い白鳥を見つめます。1929年の世界恐慌以来の、最悪の経済危機になる可能性も否定できません。

感染防止のために、人と物の分断と孤立が発生しました。コロナウイルスは、21世紀の人類に警鐘をならしていると受け止めています。経済活動の基本への問いかけです。第一に、分断と孤立に対する連携の重要性です。新しい組み合わせです。第二に、価値の原点です。本来の価値であるモノづくりの価値です。デジタルバリューの前提となるアナログバリュー回帰です。第三は、新型コロナのように、進化しない種は滅びることです。すなわち、イノベーションを行わないと存続が危ぶまれるということです。



コロナという言葉は、ウイルス、黴菌のイメージが強く世間に残りそうです。太陽の周辺の炎の形状はコロナと言われます。COVID-19の形が良く似ているのでコロナと命名されました。このコロナの本来の意味は、スペイン語で王冠です。英語でいうクラウンです。本来は、分断や孤立と異なる統合の、まとまりの象徴です。ウイズ・コロナよりは、やはり、フロム・コロナと考えます。コロナ禍を克服し、禍を転じて福とする、事が大切です。ウイズ、とするのなら、マイ・フレンズ、仲間たちとの連携を掲げます。

コロナ禍を克服するために、巨額の財政資金が投じられます。出口となる財政健全化を論じるゆとりが無い現状にあります。借金を次の更にその次の世代の負担としないうように努める必要があります。一方で、コロナは働き方改革の前進のきっかけともなっています。今年のスローガン、「エイジフレンドリー」。フレンドリーな仲間、家族、あるいは想い人。分断と孤立にあつて、働く者の安全が問われる年度でございます。NHKの朝のドラマのエンディング、応援歌は、禍転じて福となすに同義です。安全週間に命の原点を考えましょう。

京都労働基準協会会長 坂本隆司